

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成 29 年 3 月 9 日 (2017.3.9)

【公開番号】特開 2017-2079 (P2017-2079A)

【公開日】平成 29 年 1 月 5 日 (2017.1.5)

【年通号数】公開・登録公報 2017-001

【出願番号】特願 2016-189465 (P2016-189465)

【国際特許分類】

A 6 1 K 31/713 (2006.01)

A 6 1 K 48/00 (2006.01)

A 6 1 P 43/00 (2006.01)

C 1 2 N 15/113 (2010.01)

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 31/713

A 6 1 K 48/00

A 6 1 P 43/00 1 1 1

C 1 2 N 15/00 Z N A G

C 1 2 N 15/00 A

【手続補正書】

【提出日】平成 29 年 1 月 31 日 (2017.1.31)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

増加した RNA i サイレンシング活性を有する 2 本鎖 i RNA 剤であって、

a. 標的遺伝子に相補的であるアンチセンス鎖と、

b. 前記アンチセンス鎖に相補的であり、標的切断部位に相当する領域に少なくとも 1 つの修飾核酸塩基を含む、センス鎖であって、前記切断部位領域は、該センス鎖の 5' 末端から 9 ~ 12 位に相当し、前記修飾核酸塩基が、9 位におけるリボネブラリン、12 位におけるリボ - 2 - アミノプリン、または 10 位における脱塩基ヌクレオチドを含む、センス鎖と、

を含み、前記増加した RNA i サイレンシング活性が、RNA i サイレンシングアッセイにおいてそれぞれの IC₅₀ 値を比較することによって決定される、対応する非修飾 i RNA 剤に対してである、i RNA 剤。

【請求項 2】

前記センス鎖およびアンチセンス鎖が、それぞれ 15 ~ 30 核酸塩基長である、請求項 1 記載の i RNA 剤。

【請求項 3】

前記センス鎖およびアンチセンス鎖が、それぞれ 19 ~ 25 核酸塩基長である、請求項 1 記載の i RNA 剤。

【請求項 4】

前記センス鎖およびアンチセンス鎖が、それぞれ 21 ~ 23 核酸塩基長である、請求項 1 記載の i RNA 剤。

【請求項 5】

前記センス鎖およびアンチセンス鎖が、それぞれ21核酸塩基長である、請求項1記載のiRNA剤。

【請求項6】

少なくとも1つの終端に1本鎖オーバーハングを含む、請求項1記載のiRNA剤。

【請求項7】

前記1本鎖オーバーハングが、1つ、2つ、または3つの核酸塩基からなる、請求項6記載のiRNA剤。

【請求項8】

細胞中の標的遺伝子の発現を減少させる方法であって、前記細胞を請求項1～7いずれか1項記載のiRNA剤と接触させることを含む、方法。